

2015年3月17日

ロシア連邦大統領

ウラジーミル・プーチン 殿

日本原水爆被害者団体協議会

事務局長 田中熙巳

クリミアで核兵器使用を準備したことに抗議する

貴大統領は3月15日のテレビ番組で、昨年3月、クリミア半島での戦闘で、核兵器使用に向けた準備をしたことを明らかにされた。

70年前、広島、長崎で原爆被害を受けた私と全国の被爆者は、核兵器の使用を前提にしたこの措置に、強い怒りをこめて抗議する。

核兵器がいかに残虐・非道の兵器であるか、私たちは身体で体験した。広島、長崎で一発ずつの原爆によって、21万人が殺され、傷つき、70年たってもなお、後遺障害で苦しんでいる。

核兵器がいったん使われたら、いかなる医療手段によっても救済するすべがないことは、国際政治の共通の理解になっている。一昨年、昨年にかかれたオスロ、ナジャリット、ウィーンの各国際会議は、核兵器の非人道性を重ねて明らかにした。核兵器は人類と共存できない悪魔の兵器である。この間のNPT再検討会議準備委員会および国連総会第一委員会での5回におよぶ共同声明は、核兵器を使用しないことが人類の利益であり、核兵器の不使用を保証できるのは核兵器の廃絶以外にないことを声明している。今年4月から5月にかけて開かれるNPT再検討会議の主要議題は、核兵器の廃絶である。

貴国は数多くの核実験を重ねており、核兵器の破壊力と後障害の根深さについては熟知しておられるに相違ない。国際会議で核兵器の非人道性が討論され、廃絶への提案が幾度となく可決されていることも、十分承知のことと拝察する。

こうした国際的な懸念と願望を無視して、貴大統領は核兵器使用を準備した。私たち被爆者は貴大統領の措置に厳しく抗議する。このさい貴大統領は、核兵器を使うことを考えるのではなく、非人道きわまる核兵器の全廃への道を進むよう要求する。